



HOPE ニュース



TEL 097-540-7555

今年も早いもので11月となりました。つい先日まで汗ばむような暑さを感じていましたが、一雨ごとに秋の気配を飛び越えて初冬を思わせるような肌寒さを感じる日もありました。インフルエンザの予防接種も始まり、年末に向けて、何となく慌ただしさが増してくるような気がします。さて、今月のHOPEニュースは、「検査マスタの追加」と「統一名収載品等の追加」項目のご案内です。必要に応じて、ご確認をお願いいたします。



【検査マスタ追加】

<内訳> 平成28年9月30日通知（平成28年10月1日より適用）

診区	管理番号	コード	略称	名称	単位	単価(円)	薬効	電算コード	経過予定	区分
66	6300684	83984	83984	抗MDA5抗体		2,700.00		160209150		新
66	6300685	83985	83985	抗Mi-2抗体		2,700.00		160209250		新
66	6300686	83986	83986	抗TIF1-γ抗体		2,700.00		160209350		新

【統一名収載品】

<内訳> 統一名収載品等の追加

◆電算種別：4 電算単位：[錠] 016 [A] 022

※必要に応じてご確認をお願いいたします。

診区	管理番号	コード	略称	名称	単位	単価(円)	薬効	電算コード	経過予定	区分	備考
21	2107255	96744	ア746	アロプリノール錠 100mg「TCK」	錠	7.70	3943	620856211		新	後発品
30	3033433	96745	ガ93S	ブドウ糖注5%「CMX」	20mL A	61.00	3231	620735119		新	

【香りのお話】 ◆第10回◆ 【香りの生理心理的作用】

（日本香料工業会HP 抜粋）

鼻をつまんでリンゴを食べると生のジャガイモのような味になり、その状態で暗闇でオレンジとリンゴのジュースを飲み比べても違いがわかりません。このように、においは私たちの生理機能にさまざまな影響を与えます。おいしそうなおい消化器の運動を高めて消化液の分泌を促し、悪臭は私たちの活動意欲をそぎ、ときには頭痛の原因にもなります。アンジェリカという植物の根に含まれているエグザリトリドは、ジャコウのにおい成分であるムスコンによく似た化学構造を持っています。成熟した女性はこれに敏感に感じ、排卵期に最も敏感になり妊娠すると鈍感になりますが、男性や少女はほとんど感じることがありません。香料植物の学名のなかには officinalis（薬用の）とついているものが多数あります。これらの植物から得られる芳香油は、その香りを楽しむだけでなく、心身の病を癒す神秘的な力があると古くから信じられていました。香りの効用に注目されるようになったのは20世紀前半のことで、フランスの医師ガットフォッセによって研究成果が発表され、民間療法に用いられるようになりました。香りそのものの心身への効果は、主成分としてアルコール、ケトン、テルペン、エステルが多い芳香油は鎮静的な働きがあり、アルデヒド、フェノール類、脂肪酸エステルを多く含む芳香油は興奮的な作用があることが、1970年代にミラノ大学のP.ロベスティエー教授のグループによって確認されました。今日、ストレスのたまりやすい複雑な社会の中で、フレグランスのなかに含まれる香りによって、次のような効用が期待されます。

- 気持ちや神経を休ませる鎮静効果
 - 心を和やかに明るくしてくれる高揚効果
 - 心身を温め情緒を安定させるリフレッシュ、リラックス効果
- ・・・みなさまも、このような香りで気分を変えてみてはいかがでしょうか？



（お願い）消耗品のご注文は、なるべくFAXにてご注文をいただきますようお願い致します。FAX.097-540-7556